

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	情報工学演習第一		
英文授業科目名	Computer Laboratory I		
開講年度	2008年度	開講年次	2年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法	演習	単位数	2
科目区分	専門科目-学科専門科目-必修科目		
開講学科・専攻	情報工学科		
担当教官名	中山 泰一 ほか		
居室	西9-439(中山)		

公開E-Mail	授業関連Webページ
授業時に各課題ごとの連絡方法を配布する	

<p>【主題および達成目標】</p> <p>(a)主題： プログラミング演習および必修講義科目(関数論, 計算機通論)に対応した演習を行う。</p> <p>1) プログラミング演習では, 基本的な文法, ポインタ, 構造体などのC言語の基礎を学習する。</p> <p>2) 関数論対応の演習では, 具体的な演習問題を通して, 複素数や正則関数の基本的な性質および複素積分や留数定理など, 関数論の基礎事項を習得する。</p> <p>3) 計算機通論対応の演習では, 計算機の動作原理を理解するために, アセンブリ言語について学習する。SPARCプロセッサのアセンブリ言語を用いて演習を行う。</p> <p>(b)達成目標：</p> <p>1) プログラミング演習では, C言語の基本的な文法を習得し, ポインタを用いた文字列操作, 構造体を用いた簡単なデータ操作がC言語によって表現できるようになることを目標とする。</p> <p>2) 関数論対応の演習では, 関数論の基礎事項を理解するとともに, 複素数や正則関数の簡単な計算や留数定理を用いた複素積分の計算ができるようになることを目標にする。</p> <p>3) 計算機通論対応の演習では, アセンブリ言語を通じて計算機の命令セット・アーキテクチャについて理解し, 計算機の基本的な動作原理を理解することを目標とする。</p>

電気通信大学 平成20年度シラバス

【前もって履修しておくべき科目】

コンピュータリテラシー, 工学基礎演習第一,
基礎プログラミング, 基礎プログラミング演習, 工学基礎演習第二

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

微分積分学第一, 微分積分学第二

【教科書等】

対応する講義科目の教科書や参考書.
その他必要な資料は演習中に配布する.

【授業内容とその進め方】

最初の1回で演習全体のガイダンスを行い, 以下の3つの演習(計12回)を途中2回の相談日を交え, 対応講義のスケジュールに連動させながら実施していく:

- 1) プログラミング演習 (P演習, 3回)
- 2) 関数論対応の演習 (M演習, 4回)
- 3) 計算機通論対応の演習 (C演習, 5回)

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

上記 1) 2) 3) に対応する課題の成績を総合して決定する.
全ての演習の全ての課題に合格しなければ, 本演習の成績は不可となる.

【オフィスアワー: 授業相談】

特に設けない. 演習中の時間, あるいは電子メールを利用して質問すること.

【学生へのメッセージ】

この演習は情報工学の基礎を学ぶ必修講義に対応しており, 講義内容の理解をより深めるためのものである
ので, しっかり取り組んでほしい.

【その他】